

第13回APCTP日本委員会会合議事録

日時：2014年12月22日（月）午後2時から午後4時まで

場所：理化学研究所和光キャンパス研究本館248号室

出席者（順不同、敬称略）：河本昇（北海道大学）、藤川和男（理研仁科センター）、古崎昭（理化学研究所）、橋本幸士（阪大／理研仁科センター）、肥山詠美子（理研仁科センター 次期委員）、多田 司（理研仁科センター）
TV会議で参加；保坂淳（大阪大学RCNP）、大西明（京大基礎物理学研究所）、横山順一（東京大学ビッグバン宇宙国際研究センター）、磯暁（KEK）、矢花一浩（筑波大学計算科学研究センター）、佐々木節（京大基礎物理学研究所）、早川尚男（京大基礎物理学研究所）
Skypeで参加；押川 正毅（東大物性研）

欠席者（順不同、敬称略）：菅原寛孝（沖縄科学技術大学院大学）、九後汰一郎（京都産業大学）、井口英雄（日大）、長瀧 重博（理化学研究所）

議事：

河本委員長を議長として会議開催。

1. 前回議事録承認

第12回APCTP日本委員会会合の議事録案が原案どおり承認された。

2. 理事会報告

3月および11月に行われたAPCTP Board of Trustees Meetingについて出席した藤川委員から報告が行われた。オーストラリア代表のPaul Pearce氏が正式に理事長に選出されたこと、1年間に22報の論文が出版され、JRGリーダーが次の職を得てキャリアを伸ばしているなどの現状が報告された。またメンバシップフィーは額は少ないが使用に際して自由度の高い財源として評価されていることが紹介された。また来年度の予算等もこれまでと同様に確保でき、従来通りの活動が行える見通しとのことであった。大きなポイントとしてPresidentのSwan Kim氏がPresidentを辞任し、今後後任のSearch Committeeを立ち上げることになった。来年3月下旬頃には目処が付けられる見通しとのことであった。APECとの連携を積極的に打ち出していたSwan Kim氏の辞任に伴い、この点についての今後の不確実になったとの見通しが示された。

3. General Council報告

3月に行われたAPCTP General Council Meetingについて出席した横山委員から報告が行われた。特に今回Meeting開催の前日にAsia-Pacific Basic Science Cooperationが行われ、横山委員がパネルディスカッションに加わったこと、日本側からもメンバシップフィーの状況を説明したことなどが紹介された。またメンバシップフ

ィー分担に関して、分担研究機関にそれぞれ個別に分割して請求書を送ることが可能かどうか質した所、請求書の分割は困難で、代表となる研究機関は選んで欲しいとの回答があったことなどが紹介された。

上記の報告を受けて、議論が行われた。まず委員長よりなぜ提携先としてAPECの名前があがるのかとの質問が出された。これに対し、TriesteのICTPがUNESCOと関係しているの、それに対応するものとしてAPECを考えているのではないか、国際機関からのお墨付きを求めているが、UNESCOは規制が厳しい所APCEはまだ融通が聞くと考えているのではないか、等の意見が出された。またいずれにせよ現時点ではAPECからの予算獲得の見込みはなく、次期President次第だが、APECの名を関したポジションを作る程度ではないかとの意見も出された。

次にPresidentについて、これまでの経緯が振り返られた後、選考委員会に韓国以外からも加わり、韓国外の意見を取り入れ、透明性があり、かつ世代交代を促進するようなPresidentが決まるのが望ましい等の意見が出された。また日本の役割としては学問的な部分でサポートするのが適切との意見も出された。これに関連して、基礎物理学研究所とAPCTPとの協力関係についても現状の説明と意見交換があり、コミュニティからのサポートを前提に今後協力関係を進めることは可能との見方が示された。

4. メンバーシップフィーの分担について

メンバーシップフィーを今後分担することについて、第12回会合での議論に基づいて作られたワーキンググループによる案が提示された。これについてAPCTP日本委員会がメンバーエンティティになることやコンソーシアムを作るなどについて議論が行われた。また将来的に基礎物理学研究所がメンバーエンティティとして取りまとめることについては、日本委員会からの要請を含むコミュニティからの希望があれば前向きに考えたいとのことであった。これらの議論ののち、分担についてはワーキンググループ案に沿って進めていくこととし、研究機関選出の委員はこの案を持ち帰り各研究機関で検討することとなった。また中長期的にはコンソーシアムを作ることを検討することとされた。

5. 次期委員について

2015年3月31日で任期が満了となる委員について、選出母体の各コミュニティに後任の指名を依頼した結果が報告された。結果は以下のとおり：

物性グループ 遠山貴己氏（東京理科大）

原子核サブグループ 肥山詠美子氏（理研仁科センター）

理論天文学宇宙物理学懇談会 吉田直紀氏（東京大学）

素粒子論サブグループ 河本昇氏（北海道大学）

また研究機関選出委員で2015年3月31日に任期の満了を迎える委員については、各研究機関で重任含めて後任を選出して頂くようお願いした。

6. 監事推薦に関して

これまでAPCTP日本委員会の決議によってAPCTPに推薦してきたAuditorにつき、速やかに推薦が必要な場合の取り扱いを委員長に一任することが提案され、了承された。